

8 働きがいも  
経済成長も



11 住み続けられる  
まちづくりを



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



# つながり創出 プロジェクト



松井 みどり ・ 山崎 嘉人 ・ 長澤 早紀 ・ 安部 友恵

令和5年10月6日

まちづくり重点プロジェクト会議 発表資料



おきしま ちよう  
隠岐の島町  
Okinoshima-Town

# 1.はじめに

## ◎きっかけ(自分の体験談)

### 高校生まで隠岐の島町で暮らす

- ・ふるさと教育
- ・ジョブフェア
- ・たくさんの住民との関わりがある
- ・仲間たちと

「島に帰って、島を元気にしよう！」  
って話していたのに...



### 大学生になって島の外に出る

- ・長期休暇等で帰省しても、  
島について考える機会は少ない  
特定の住民との関わりしかない
- ・興味関心のある情報が手に入りづらい
- ・大学生対象のイベントってあるの…??

⇒ 島で暮らす・働くイメージが湧かない

## ★大学生

自由な時間(興味関心のあることに取り組む、自分の将来について向きあう)がたくさんある

⇒ 待ちの姿勢じゃ、もったいない!!

## 2. プロジェクトに込めた想い



移住・定住の可能性を  
秘めた大学生

つながりの創出

20~30代の  
若者

第2次隠岐の島町総合振興計画の  
10年後の人口目標を達成する

### 3. 目標達成へのステップ

Step 1

Step 2

Step 3

Step 4



つながり会員数

1,000 人へ



プログラムや  
活動に参加

・町から情報発信を  
行い、来島を図る



関係人口→定住人口へ

- ・ふるさと納税の寄附者が増加
- ・UIターン者、定住者、地域の  
担い手が増加



令和11年度末の

人口 12,781 人

# 「つながり会員」制度(補足)

- つながり会員【341名】(拡大中)
- 島のファン・担い手として
- 地域活動の力にもなる存在



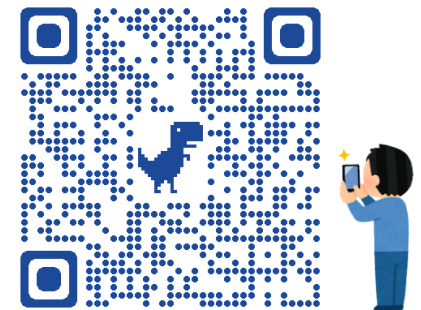
(豊中まつり 2023 お手伝いスタッフ受け入れ)

＼「関係人口」はじめました／



「関係人口」ロゴデザイン

隠岐の島町に関わるすべての人が、手を取り合う様子を表しています。全体の形はデジタルマップ上のピンをイメージしており、リアルだけでなくデジタル上でも人と人が繋がることができるということを表しています。ロゴ上部に描かれているのは、町の花である「オキシャクナゲ」です。



## 4.現状及び課題

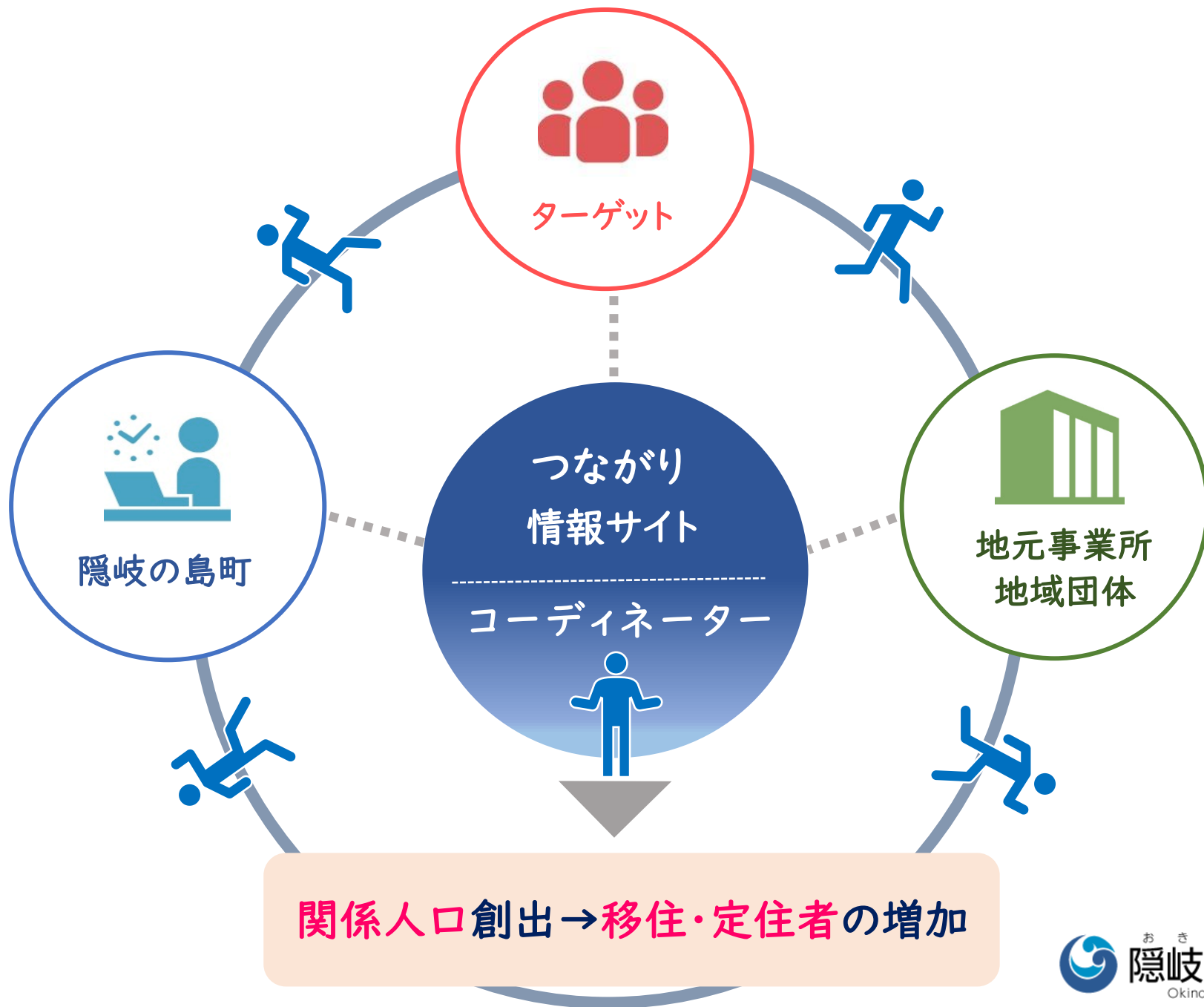
- ・隠岐を出た出身者とのつながりが希薄・・・**フィジカル**
- ・情報発信力・宣伝力不足・・・・・・・・・・・**デジタル**  
(発信者がバラバラ、不定期更新 etc.)



デジタルを使った“キツカケ”づくり

フィジカルによるおきびととの“つながり”を創出





# 5-1.つながり創出プロジェクト

～デジタルを使った“キッカケ”づくり～

## ◎情報発信の体系化【デジタル】

“ポータルサイト”の新設（仮称：『つながりポータル』）

- 内 容：就職情報、イベント情報などの掲載
- 目 的：情報を一元化し、ほしい情報を見つけやすくする
- ターゲット：移住・定住の可能性を秘めた**大学生**

**20～30代の若者**などを中心に



## 5-2. つながり創出プロジェクト

～フィジカルによるおきびととの“つながり”創出～

### ◎帰る用事の企画支援・調整【フィジカル】

**短期的**：ジョブフェア、ボランティア、子どもたちの学習支援

祭り・産業祭、ビーチクリーン、サークル・部活動の誘致、アルバイト(短期) etc.

**中期的**：インターン、職場体験、就労型お試し移住、

アルバイト etc.

## 6. 予算

### ◎歳入

新たな「移住・定住」推進プロジェクト補助金（市町村振興協会）  
離島活性化交付金、デジタル田園都市国家構想交付金 etc.

### ◎歳出

コーディネーターの配置費用、活動費用、広告宣伝費、  
印刷製本費、旅費（イベント参加者、大学等へのPR・視察）、  
ポータルサイトの作成・管理費用 etc.

## 7. 今後の予定 (R5年度)

### ◎令和5年度

○9月： R6 地域おこし協力隊 (コーディネーター) 要望書 ※提出済み

○10月： 事業実施計画への登載

○11月： つながり創出プロジェクト プレ事業の開始

⇒ 庁内プロジェクトチームを結成

⇒ 以降、定期的に連絡会を実施 (主管課: 地域振興課)

○12~2月： 地域おこし協力隊 募集・選考

○2~3月： 卒業前の高校生に対し、プロジェクトの周知を行う

※ 今後実施する“帰る用事”への参画を促す

⇒ 県庁・定住財団と情報共有 (UI 支援、ジョブカフェ等)

⇒ 各課より次年度計画を募集

## 7. 今後の予定 (R6年度)

### ◎令和6年度

- 4月： 地域おこし協力隊（コーディネーター）就任  
関係各所への依頼・打ち合わせ（～5月）
- 6月： Webでの広報（町HP「つながりどころ」、HP バナーに追加、キーワード  
検索設定、くらしまねっと、ジョブカフェしまね etc.）  
※Web で申込できるようにする（専用フォームを整備）  
広報・お知らせ便・町内放送等でプレ事業を周知  
町外への視察・PR・活動見学の招待
- 7～8月： 活動・報告 ※随時（サイト及び紙媒体での掲載）
- 9月： 効果検証、ブラッシュアップ
- 10月： R7年度の予算取り（ポータルサイト作成見積もり）

## 7. 今後の予定 (R6→R7年度)

- 11月～：本格始動に向け、町内事業者等にPR・協力呼びかけ
- 1～3月：コーディネーターとの契約、事業内容の調整

### ◎令和7年度

#### ○本運用へ【実装段階へ移行する】

- ・4～6月：コーディネーターの本採用

サイト作成・管理事業者の選定

- ・7月以降：サイト整備作業、事業者・地域団体との調整 ※随時

⇒「つながりポータル」の始動(デジタル)

⇒「帰る用事」の始動(フィジカル)

必要な情報にすぐに  
アクセスできる  
↓  
隠岐に関心を持つ人が増え、  
UIターンする



インターン、行事手伝い  
など募集情報の提供  
↓  
人材、地域の担い手  
不足の解消



事業計画・予算管理  
↓  
情報提供・伴走  
フォローアップ

・企画支援  
・調整、問合せ対応  
↓  
ターゲットと地元事業所  
のマッチング

**関係人口創出→移住・定住者の増加**

## 8. おわりに

○島を離れた若者と隠岐の島町とのつなかりを再構築し、

“帰る用事”づくりを行う ⇒ Uターンの促進

○新たに隠岐の島町と出会った若者とのつなかりを創出し、

“担い手”の確保を目指す ⇒ Iターンの促進

**【まちの将来像・人口ビジョンの実現】**

つながらあや  
つながあや  
一万年の隠岐の島

